討議課題

我が国では、平均寿命や健康寿命が延びる一方で、居住する地域、所得状況、年齢構成、家族構成などの違いにより、健康状態や医療・健康サービスの利用状況に差が生じていることが指摘されています。

こうした地域における健康格差は、個人の生活習慣や健康への意識の違いだけでなく、医療機関や保健サービスへのアクセス、住環境や食環境、地域における人とのつながりの有無など、複数の社会的・環境的要因が複雑に関係して生じていると考えられます。

一方で、健康は本来、個人の選択や努力に委ねられるべき側面もあり、行政が一律に介入することへの慎重な考え方や、限られた財源の中で、どの層・どの地域に重点的に対応すべきかといった課題も存在します。

また、国と地方自治体では果たすべき役割が異なり、全国的な制度設計が求められる分野と、地域の実情に応じた柔軟な対応が求められる分野とをどのように整理するかも重要な論点です。

そこで、地域における健康格差の縮小に向けて、その要因や課題を整理した上で、行政はどのような考え方に基づき、どのような役割を果たすべきか、国と地方自治体、地域社会の役割分担にも留意しつつ、自身の考えを明確にし、個別発表及び討議用のレジュメを作成してください。